

# カーボンリサイクル特別講座 第2回 ワークショップ成果の紹介

## 成果の概要

バイオマス由来の製品生産について、具体例とその市場性を現状を踏まえながら討議を行いました。

## ワークショップの概要

バイオマス由来の製品を「燃料」「食品」「医薬品」など項目分けし、それぞれ具体例とその市場性について、意見出しを行いました。

意見が出揃ったところで、専門家からの補足説明をもとに、バイオマス活用の現状について理解を深めました。

# 具体例

燃料

SAF、船舶、自家用車等のバイオ燃料、エタノール

食品

ヘマトコッカス色素、健康食品（サプリメント…）、疑似食品（フェイクミート…）、食用オイル

飼料

飼料の高栄養化、栄養補助食品

医薬品

ワクチン、経口医薬品

バイオプラスチック

バイオナフサ、バイオPET樹脂（ペットボトル、食品トレイ…）

工業用油脂

潤滑油、エンジンオイル

その他

ブルーカーボン用材料、保水材、ごみ袋、ゴム建材、香料

# 市場性

燃料

大量生産orブレイクスルーによる低価格化、生産経路（廃液利用…）の多様化

食品

規制がやや緩い・利益率が高い・炭素税（2028年～）→参入しやすい  
ブランディングによる高価格化が可能、宗教による影響低いというメリット有

飼料

低価格化が必須  
付加価値による利用促進（ブランディング）、養殖業の活性化

化粧品

価格転嫁しやすい、効果の検証が必要

色素

天然由来  
色の安定性の担保できるか？、経済性の問題

医薬品

安定供給が必須、規制が厳しい、動物にも投与しやすい

バイオプラスチック

マイクロプラスチック減少に寄与、バイオジェットの副産物利用  
ナフサー→化粧品のプロセス利用、ナフサクラッカーの原料利用

その他

CO<sub>2</sub>固定化に利用できるか？（ブルーカーボン用材料）、砂漠緑化に使えるか？（保水材）、  
焼却場で燃やせる（ごみ袋）、焼却可能なゴム（ゴム建材）、希少な動物香料の代替など  
（香料）